

平成23年11月1日



第42号



あまぬまだより

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumashou/> 杉並区立天沼小学校

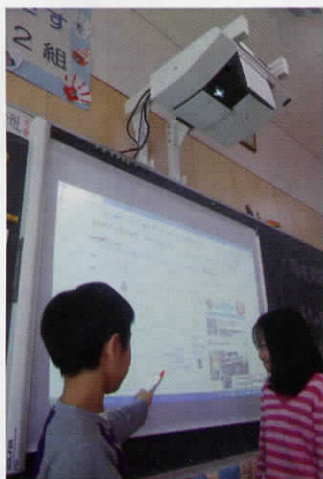
ACS(あまぬまコミュニケーションスタイル)へのトライアル

ICT担当 主幹教諭 松川厚雄

ICTとは、インフォメーション(I)アンドコミュニケーション(C)テクノロジー(T)。直訳して、情報通信技術。すでに使い古された感のある言葉です。コミュニティースクールの天沼小では、「技術」というより、もっと人間的な「姿勢」のほうがふさわしく思え、ここではあえて造語を使ってみます。

ACS。あまぬまコミュニケーションスタイル。天沼小の教育活動には、日常からCSの方や地域の方々が多数関わってくださり、その人的環境の中で、子供たちはコミュニケーションの方法を自然に身につけてきています。そして、授業中には、各教室やPC室において、IT機器を活用したコミュニケーション活動を進めています。その様子の一部を紹介しましょう。

超短焦点型プロジェクターは、各教室の黒板に常設されたプロジェクターで、いちいち机等の上に設置することなく、リモコン一つで起動し使える優れものです。これに、ビデオやDVD、パソコン、Eボード(電子黒板用ユニット)等を接続し、映像資料を提示して学習に役立てています。



実物投影機(OHC)も、各教室や、特別教室にある、資料集のグラフや児童のノート、写

真資料などを簡単に映して、教室全体に見せることができます。これを使って、子供たちが自分の考えを発表する場面も多く見られます。



校舎内にはLAN(校内のパソコンをつなぐネットワーク)ケーブルが張り巡らされていて、アクセスポイント(上の写真、中継基地)も数多く設置されており、どこでもインターネットを活用することができます。固定テレビはないので学校教育放送は見られませんが、Web利用で番組を必要な時に見ることができます。また、運動会でも試みましたが、Webカメラ(下の写真)とU-Stream(インターネット上のライブ放送無料システム)を使って学校行事等の様子を配信することで、コミュニケーションの輪を校内はもとより、地域にも広げようとトライしております。このように、IT機器の教育現場への導入は著しいものがありますが、その目指すところは、教育の効率化と個別化にとどまらず、コミュニケーションツールとしての活用です。



今後とも、天沼小学校では、子供と子供のface to faceのコミュニケーションをベースにして、人的環境とIT環境の充実を図り、ACSの確立に向かって努力していきます。

……今月の目標……

生活

落ち着いた生活をしましょう

保健

姿勢をよくしましょう

給食

感謝して食事をしましょう



11月の行事予定

日	曜	行事予定
1	火	かけあし・読書 安全指導 社会科見学(3年)
2	水	読書タイム フォローアップタイム 天沼フレンドパーク
3	木	文化の日
4	金	読書・かけあし たてわり遠足
5	土	
6	日	震災救援助所訓練(13:00~)
7	月	全校朝会 避難訓練 クラブ活動
8	火	かけあし・読書 就学時健康診断(全学年4時間授業)
9	水	水曜特別時程
10	木	音楽集会
11	金	読書・かけあし
12	土	
13	日	
14	月	全校朝会
15	火	かけあし・読書
16	水	読書タイム フォローアップタイム
17	木	読書タイム 学芸会前日準備
18	金	学芸会(児童鑑賞日)
19	土	学芸会(保護者鑑賞日)
20	日	
21	月	振替休日
22	火	かけあし・読書 はみがきキャンペーン
23	水	勤労感謝の日
24	木	児童集会
25	金	読書・かけあし お店番体験(3年)
26	土	
27	日	
28	月	健康朝会 クラブ活動
29	火	かけあし・読書
30	水	連合音楽会(5年) フォローアップタイム 天沼フレンドパーク

THE 天沼小の魅力vol.7

『バリアフリー』という言葉を知っていますか?高齢者や障害のある人が安心して生活をするうえでの様々なバリア(障壁・障害)を取り除くことです。本校は『物理的バリアフリー』の校舎です。門から昇降口、トイレ、そして階段以外の校内すべての床で段差がありません。また、エレベーターや階段の手前には「止まれ」という意味の丸い点字ブロックが設置され、階段の手すりにも場所を示す点字があります。

今年は都立永福学園と区立済美養護学校の5人の友達と副籍交流を行っています。車いすやストレッチャーで来校し、エレベーターで教室に移動します。音楽の授業を一緒に取り組んだり子供祭りに参加したりしました。楽しく交流できているのは『心理的バリアフリー』の心を子供たちがもっているからでしょう。今後も、障害のある人もない人もすべての人が個人として尊重され、共に支え合いながら安心して生活できるアクセスビリティな学校を目指しています。



学校運営協議会だより

「地域とともにある学校」をめざす

文部科学省「学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議」の提言が平成23年7月5日に出されました。そこには今後すべての学校が「地域とともにある学校」を目指すべきでありと記され、「学校と地域の関係づくりが、人々の学びと成長を促し、ひいては子供たちを守り、地域を守ることにつながります。そのために、すべての学校が保護者・地域の人々と一体となって子供たちをはぐんでいくことが求められています。」とまとめられています。

当事者意識をもって

これからの公教育では、学校が抱える課題を共有し、学校・保護者・地域の人々がよく考え、相互理解を深め、各々が当事者意識をもって課題解決に取り組む必要があります。

保護者は家庭教育の責任者として、地域住民は地域教育の担い手として、それぞれ責任があり、子供たちをどのように育てていくかについては、学校に求めるだけでなく、当事者として自分たちの持ち場で積極的にかかわっていく意欲が求められているのです。

学校評価アンケートの実施

それを受けて、天沼小学校運営協議会では、現在、学校評価アンケート作成のための準備を行っています。その目的は、学校の教育活動を評価していただくを通して、天沼小が取り組んでいる教育内容を、保護者・地域の皆様により分かりやすく理解していただき、より保護者・地域・学校が一体となって学校運営の改善をしていくことにあります。

具体的には、学校教育目標である「知」・「徳」・「体」と、「特色ある教育活動」から13項目の設問を設定して、1月下旬にアンケート配布をする予定です。趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

次回の学校運営協議会の予定 11月24日(木) 10:00~

※傍聴を希望される方は、副校長までご連絡ください。